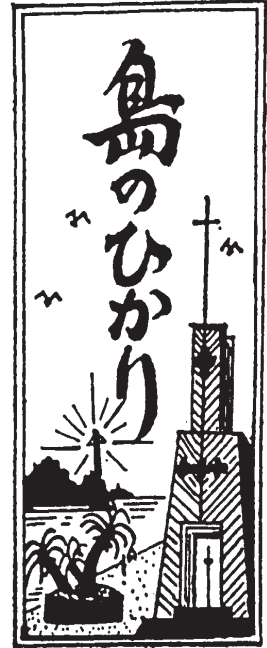




司祭団ソフトボール大会 高見大司教の勇姿（9月25日）

島のひかり ホームページアドレス

<http://lifeaidgoto.jp.cx/simanohikari/>

発行

カトリック浦頭教会
 広報委員会
 五島市平蔵町2716
 TEL 0959-00072
 印刷・(株)才津印刷所

寄り添う

主任司祭 岩崎 晋吾

前回、東日本大震災について「寄り添い続けて下さい」という内容で書かせていただきました。

神は人間に寄り添うためにイエスを私たちのもとへと遣わされました。全能である神はもっと手早く簡単に救いの業を行えばよからうと考えもします。今や、「早い、安い、うまい」の時代。何事もコンビニエンスが「よし」とされていますが、正直、神様の救いの方法はなんと長い時間を要し、手際の悪いものなのでしょう。

8月に下五島地区で被災地ボランティアの為に食材をお願いし各ベースへ届けました。今回の支援に関しましていろいろな方法があったわけですが、一番求めていたものはこちらの「寄り添いの心」がどのようにならもっと伝わるのかということでした。

これまでの支援の主流である

支援金を送る方法がある。食材というのであれば、そのための支援金を募り、まとめ買いをして送るという方法もあったわけです。しかし、今回あえて皆さんから食材そのものをもってきていただくことにしました。

現地の人々が届いた箱を開いた時に一番心が伝わる方法。それはこちらが手を尽くし心を尽くして準備したものであるはずです。そう信じて準備を行いました。今回面倒でした。手早く簡単：ではない方法をとらせていただきました。送られてきた箱を開けた瞬間、そこには「土の付いた野菜」、「五島名産のうどん」、「この土地で作られた米」など、見える食材を通して届けたかったのは寄り添い続けていきますという心です。金銭では、なかなか伝わりにくいものを伝えようと思いました。

寄り添いの心がこれからもボランティアの力となりますように。そして彼らの力が被災地を復活へと導いていきますように。

堅信組 平和学習

今年も堅信組が平和学習を行ないました。今回は八月九日、十日の二日間、長崎大司教区の平和祈願祭に参加し「永井隆博士を知る」というテーマで行なわれました。以下は子供たちの感想文です。

二年 赤尾 鈴香

わたしたち、一・二年生、堅信組は、九日から一泊二日で、平和学習のため長崎にいきました。そして、この平和学習で、わたしたちは、永井隆という人について学びました。永井博士が生活していた「如己堂」や、「永井記念館」を見学して、永井博士の生き方について知る事ができました。

頭にケガをしていても布を巻くだけで、他の被爆者の救護活動にあたりたり、浦上の地に千本の桜の花を咲かせようと苗木

を植えた事など、自分の事よりも人の事を考えていた永井博士はすばらしいと思いました。私も人の事を考えて行動できる人になりたいです。



二年 谷尾 愛

わたしたちは、永井隆記念館を見学しました。永井隆博士は自分も被爆し右側頭動脈切断という重傷を負いながらも、布を頭に巻くのみで救護活動にあたりていたことを知りました。自分も重傷を負っているのに、他の怪我人の救護活動をしていたなんてすごいと思いました。永井博士の実際に住んでいた如己堂も見学しました。2畳ほどしか

ない本当に小さな部屋で、原爆による病気の研究をしたりしていたことにおどろきました。永井博士のこのことば「如己愛人」己の如く隣人を愛せよを考え、自分もそんな風になりたいと思いました。

二年 入口 綾乃

わたしたちは、長崎の平和学習に参加しました。そこで、平和について考えることができました。まず、永井隆博士の如己堂に行きました。とてもせまいところでした。そこで暮らしていたと考えると、すごいと思いました。この永井博士は、無料診断や無料奉仕活動をしていて、いろいろな人の役に立っていて、すばらしいと思いました。永井博士は白血病で四十二歳という短い人生を終えましたが、人のために働いていて、いい人生だったと思います。わたしも人の役に立てるような人間になりたいです。そして、平和を祈っています。

一年 梅木 竜二
ぼくたち、中学生一・二年生で長崎で平和学習をしました。ぼくが、一番に残ったことがあります。

それは、永井隆博士です。永井博士は、自分が重い傷を負っていても、負傷者のために救護に取り組みました。ぼくは、きつくなったりしたら、すぐあきらめてしまいます。しかし、永井博士は救護をあきらめずに、傷を負った人を助けていました。ぼくも、勉強や部活をあきらめずにしたいと思います。

ぼくは、戦争はやってはいけません。と思います。しかし、まだ外国では、まだ戦争をしている国もあると思います。だから、早く戦争が終わって平和になってほしいです。

二年 川口 大輔

僕は、八月九日と八月十日に長崎の平和学習に行ってきました。僕が一番印象に残っているのは、永井隆博士の事です。永

井さんは、長崎に原子爆弾が落とされて、自分の体はポロポロなのに、自分のことよりも人を助けに行つてすごいと思ひました。

永井さんは、自分が白血病とわかつて余命三年と言われて、とても悲しかったと思ひます。しかし、そこでくじけずにみんなのために何かをしようとしていてすごいと思ひました。

僕は、これからこの平和学習で学んだ事をいかして、自分が多少苦しいことがあつても、みんなのためにがんばれるようになります。

一年 濱崎 壹成

ぼくは、平和学習に行つて学んだことは、永井隆の生き方や平和について学びました。

永井隆の生き方ですごいなと思つた所は、いろんな病をかかえながらも、いろんな有名な本を書いたところだ。

八月九日原爆投下の日、七百メートルの距離で被爆しました。

右側頭動脈切断という重傷をかかえながらも、頭に布を巻いて救護を行なつた。ぼくは、それを聞いてすばらしい人だと思ひました。

平和について学んだことは、戦争をしても何もいいことない、ただ町が焼け野原となり、人命がたくさんうばわれることを学びました。

このことから、戦争はしてはいけない、かくへいきを使ってはならないことを学びました。

二年 鍋内 佳奈

わたしは、今回浦上教会での永井隆博士や平和祈願祭に参加して、「平和」について考えることができました。永井博士は

無料診断、無料奉仕活動を行い、人のために尽くされました。わたしも永井博士のように、誰かのために何かを奉仕する、神様のため、自分ために喜びの心を持って奉仕することが大切だと思ひました。

平和祈願祭のように、みんな

が「平和」について祈ることで世界平和に近付いていけると思ひます。

今回の平和学習で学び、感じたことを心に留めながら過ごしていきたいと思ひます。



ありがとう

今回も次の方々より御芳志を頂きました。ありがとうございます。

- 佐世保市 今村 スマ子様
- 北九州市 赤尾 良樹様
- 大阪府 赤本 時代様
- 倉敷市 鍋内 信幸様

秘跡

《幼児洗礼》

フランシスコ

ザビエル 宮川 侑

(父…孝行・母…祐美)

《結婚》

ヨゼフ 木口 誠也

マリア 赤尾 由紀

(八月四日)

《帰天》

マリア 鍋内ミツル

(八月一日 九三歳)

ヨゼフ 白濱 實

(八月一四日 八三歳)

フランシスコ 宮崎 實

(六九歳)



下五島連合婦人会で

三井楽へ巡礼に (10/14)

江口 初子



福江教会での信仰年開年ミサが終るのを待って、岩崎神父様の引率のもと約六〇名の熟女は三井楽教会へ…。そこはまるで美術館のようで、中央に昇天のイエス様、そして新設時に有志の方が六年もかけたステンドグラスがあり、絵画・レリーフなども斬新な癒しの空間。そして正午、腹の虫と共にロザリオ、神父様の講話。神は人を良きもの幸福であるべきものとして造られた。しかし、満たされぬ人もいる。できることは、寄り添い、神の力をかりつつ、愛をもって婦人の立場で考え実行すること。それが心の自立であり、自由を獲得することで価値がある。弁当を食べ資料館へ。迫害期も、近在の人との絆で死去者ゼロ!! あんな、こんなも片隅の外海からやってきた大きな石は観ていたことだろう。それにして

も殉教とは惨いものだ!! 死ぬその時までイエス様の模範があり励ましがあってこそ、歩める茨の道。驚愕の五島史も学べた。

お楽しみビンゴ・ゲームがあったから貝津へ…。そこは歴史を越え大事にされた教会。



ロザリオと瞑想し、時は三時!! 神は鮮やかなステンドグラスで天の花園を演出。

見事!! 竹谷神父様の話では信徒が減り大変とのこと。浦頭はい方なんだ。巡礼し人と交わってこそ解る幸福あり。この旅の帰路、道の駅で皆で食べたソフトクリームと共に想い出す事でしょう。役員さんが忍ばせたメッセージ・カード。
『私たちは、この世で大きなことはできません。小さなことを大きな愛をもって行っただけです。』

マザー・テレサ

司祭団ソフトボール大会

九月二十五日、秋晴れのさわやかな中、福江中央公園にて、司祭団ソフトボール大会が行なわれた。今回は会場が五島での大会となった。



ホームランバッター・岩崎神父

出場チームは、長崎、平戸・佐世保、五島、混合の4チームで試合が行なわれ、高見大司教様の見守る中、珍プレー好プレーの続出に歓声が起こる。中には、ルールさえ分からずに参加していた神父様もいたから驚き。
昨年五島チームが優勝しただけに、今年も五島が優勝と噂されていたが、今回は三位で終っ

た。結果は優勝長崎、準優勝平戸・佐世保でした。当日準備等で活躍された役員の方々、お疲れさまでした。

下五島地区親善 スポーツ大会

台風17号の接近で危ぶまれていたスポーツ大会。選手達の熱意に圧倒され、九月三十日当日は風はあったものの、晴天に恵まれた。この大会の目的は「五島市内のカトリック教会信徒間の親睦と融和を図る」ことを掲げ、大津埋立グラウンドに、神父様、シスター、8小教区の信徒が集合した。競技種目はゲート



(左から) 吉川春子・鍋内初恵・赤尾克子・浜崎クニ子

ボール8チーム、ペタンク25チームで熱戦が繰り広げられた。

競技になれた者、当日初めて競技する者と様々であったが、和気藹々試合は進んでいった。時には応援の声が会場一杯にこだましていた。浦頭からはペタンク3チーム10名が参加し、見事、優勝と準優勝を勝ち取った。

限りないもの

富上 成美

二〇一一年五月、私は南米ボリビアに渡りました。障害を持つ方々を支援しておられる野原昭子さんのもとで学ぶためです。実は今回が六年ぶり、二度目のボランティアです。そのため前回に比べて、落ち着いて人との関わりが持てたように思います。

このボリビアでの一年を振り返ると、いっぱい感じて、いっぱい考えて、のびのびと過ごした一年でした。日々の小さなことから衝撃の出来事まで、あら

ゆるものごと・とき・ひとを通して『満ち溢れる恵み』をしっかりと感じて過ごしました。

ある時には欠かさず吸っている空気のように、ある時には乾ききった大地に染み入る水のように、様々な在り様をもって私に降り注ぐ恵みの数々に触れた生活でした。

その一つをお話しします。私は『聖マルティンの家』（私が居る施設名）で主に自閉症の方を中心に、教育やリハビリの手伝いをしていました。その中の一人、四歳の女の子、Mちゃんの話。

二歳の時に発熱し、脳が損傷されてそれまで歩けていたのに



友だち実家にて

歩けなくなり、目もほとんど見えなくなり、発語もなくなりました。処置が遅れたことが大きな要因と考えられます。母親は動かなくなった我が子を見て恐ろしくなり、逃げ出しました。

一年半程経って母親を見つけて出し、Mちゃんと対面するも、迎えに来ると言ったまま再度姿を消しました。このMちゃんの抱えた現実の重さに心が締め付けられる。でも彼女の

ために動けない私。何故彼女は母親から繰り返し捨てられてしまったのか：何故。Mちゃんは朝目覚めた瞬間から、それはそれは大きな声で泣きます。顔を洗っても泣き、ごはんを食べて

も泣き、短時間車椅子におかれなくても泣き、とにかく泣いて、止まらない。私は焦る、あれやこれややる、そうこうしていると、スイッチがオフになったときのように一瞬で泣きやんで、今度はとびきりの笑顔を見せるのです。そんな日が続けていくと、動かない足をもどかしそうに前に動かそうと必死な姿を見せ、ある時には泣きながら「ママ」と発語し、周囲を驚かせるのです。彼女が両親から受けた仕打ちには痛ましい。けれど本人は、全身で懸命に生きることをぶつけてきます。

「歩きたいんよ！抱っこしてほしいんよ！」というふうには、それは輝きの時、強さの時。Mちゃんは人の助けがなければごはんを自分で食べられないし、排泄もまだできないし、自分の痛みを泣くこと以外の方法で示すことができません。それなのに、その存在すべてで私を生かすのです。恵みの人、Mちゃんです。

第21回

純心子ども集い

子ども達、参加してくれるか
しら：この不安をよそに、懐か
しい顔、初めての顔と十三名の
子ども達の参加があり、二十一
回目の五島「純心子ども集い」
を行なうことができました。

今年のテーマは「信じる人は
しあわせ：しあわせになった人
たち」。ペープサートを作り
ながら、北原怜子さんとマザー・
テレサについて学びました。

みんなでご飯を食べたことや
手つなぎ鬼が楽しかった。

六歳 白浜 ゆう

一ばんうれしかったのは、友
だちができたことでした。きた
はらさと子さんの劇が勉強にな
りました。

二年 桑村 夏希(水の浦)

どんどん新聞紙をたたんでい
くゲームや手つなぎ鬼がとて
も良かったです。友だちがで
きたのもうれしかったです。

カレーもおいしかったです。
二年 洗川 結喜(水の浦)



“きんちょうしたよ、人形げき”

今日はゲーム、グループ活動、
ミサをしました。人形劇のれん
しゅうとほんばんはきんちよう
でしたが、劇がせいこうしたの
で、うれしかったです。テーマ
のしんじるひとはしあわせとい

うことがよくわかりました。

二年 葛島 野乃香(奈留)

わたしは、『しんじる人はし
あわせ』の題名の『しあわせ』
で、今日もしあわせでした。

みんなとなかよくなれて、子
どもの集いにきてよかったです。
わたしは、シスターの話を書い
てマザー・テレサみたいにいっ
もにこにこしていたと思います。
来年もまた来ます。

三年 白浜 光玖

わたしは、今日の純心子ども
の集いで、一番楽しかったこと
は、しがんせいの人たちが、考
えてきてくれたゲームです。

いちばんきんちょうしたのは
人形げきです。はじめてでした
がたのしかったです。また来年
も来たいです。

三年 濱崎 沙也加

私は、神の島教会のりんちゃ
んや、なずなちゃんと友達にな
りました。じゃんけんで負けた

ら新聞紙を折っていくゲームも
楽しかったです。また来年も来
たいです。

五年 入口 舞桜

純心子ども集いに参加し、
グループでゲームをして楽しかっ
たです。友だちもできてうれし
いです。人形劇はともきんちよ
うしましたが、できたのでうれ
しかったです。

五年 葛島 加奈(奈留)

A班とB班でわかれてやった
劇でマザー・テレサや北原怜子
さんのこと、とくに北原怜子さ
んのことをよく知ることができ
ました。幸せについてもたくさ
ん知ることができました。

でも、みんなでゲームをした
ことが一番心にのこりました。

五年 赤尾 真尋(光丘)

A班のやったマザー・テレサ
は本で読んで知っていたけれど、
もっと知ることができたし、北
原怜子さんは劇を通して知るこ

とができてよかったです。

五年 赤尾 萌(浦上)

今日は、一日楽しかったです。

最初にAチームとBチームにわかれて新聞ゲームをしました。

シスターが考えたゲーム、一回目は新聞リレーをしました。

これはBチームがかちました。二回目のゲームの言葉合わせゲームでは同点でした。めちゃくちゃ

たのしかったです。

来年も来たいです。

五年 宮崎 凜(神の島)

今日した人形劇で北原怜子さんやマザー・テレサのことを知ることができました。ミサでは共同きがんを言いました。

ゲームでは、みんなと仲良く交流できてとても楽しかったです。友だちができてうれしかったです。

六年 葛島 奈保(奈留)

私は、今日たくさんのことを学びました。一つは、幸せとは

何かと考えることができ、いつも感じることはちがうものを感じることもできました。

みんな、協力して発表したりしたのもいい思い出になりました。発表したり、朗読したりする時、とても緊張したけど、楽しかったです。私ができるしあわせ、それは人の役に立つことです。

私ができることは、なんでもしてあげたいと思います。

中一 宮崎なずな(神の島)



今年の水の浦教会や、お盆休みに帰省していた子ども達の参加があり、にぎやかな子ども集いになりました。昨年同様、

神父様にもご協力いただき、甘く冷たい差し入れに、子ども同様にスタンプも感謝でした。

来年も参加者大歓迎です。

シスター 濱崎 久美

平和のぼら保育園

運動会

すっかり秋めいた九月二十九日(土)、平和のぼら保育園の運動会が、奥浦小学校の体育館で開催されました。



てるてる坊主のれんを下げて、園児たちはお天気を願いましたが、台風二〇号の雨雲

は容赦ありませんでした。

しかし、両親、祖父母、親戚、来賓、ご近所の方々などの大勢の

応援を受け、園児たちはいつもより元気に走り、演技し、演奏でき、室内空間の盛り上がりを楽しめた運動会となりました。

恒例の小学生、中学生の競技にもたくさん集まってくれ、入園していない幼児さんも多く参加いただいで大変賑わいました。年長児、年中児たちは、五月から練習してきた和太鼓を力強く演奏でき、惜しみない拍手をいただいで満足でした。

保護者会長の小田さんに『がんばり』を褒めてもらい、中学校の小田校長先生に万歳三唱で締めいただいで、笑顔溢れる運動会を終えました。



ふるさと
だより

ナイターペタンク大会

…熱戦続く…

歴史を重ね第18回目となった今年のナイターペタンク大会が、九月二十五日より四日間にわたり、奥小グラウンドで行なわれました。96チーム300名を超える参加者が集い熱戦を展開しましたが、今年は特に奥小・奥中の子供達も多数参加し、応援にも一層熱が入っていました。

残念ながら、最終日夕方の準決勝戦直前から雨という初めてのケースを受け、優勝チームから四位までを抽選により決定する事となりましたが、豪華賞品



による抽選会は大いに盛り上がり、和気藹々(あいきあい)のうちに大会終了となりました。

“秋晴れに映えて”

九月二十三日、小中合同運動会が六十三名の児童生徒を中心に、笑顔と歓声の輪を広げていった。

二チームに分かれての応援合戦では、昭和の風に乗ったU.F.O.の踊り。男子が女子顔負けのダンスで、拍手の渦を巻き起こす。保護者の競技「キャッチでござる」では、シーソー風な板にボールを乗せ、思い切り踏み込むと、球は気ままに飛んで行き、ランドセルで捕る方を悪戦苦闘に誘い込む。二チームの勝負は、一点差の大白熱のうちに決した。



奥浦小・中学校運動会 9月23日

五島体育祭で準優勝!!



九月二日に行われた、五島体育祭のソフトボールFPに奥浦地区代表として出場しました。

初戦は強豪の福江地区との対戦でしたが、先制して勢いをつけ、守備ではエラーが無く勝利しました。次の準決勝は緑丘地区に勝利し、決勝では岐宿地区に敗れて準優勝となりました。大会当日は非常に日差しが強く、一日三試合はかなりしんどかったのですが、チームワークと一生懸命がむしゃらにプレーする事ができ、充実した一日となりました。

編集後記

今年は何年になく、暑く、又精神的にも大変な「夏」でした。

電力需給の逼迫の為、今夏は五島でも、九州電力からの節電・計画停電実施時の協力の要請があり、私の職場は非常に大きく電気に依存しており、停電が起きたら大変だとの事で、その対策の責任者を任せられました。

何気なく、電気のある日々が当たり前と過してきたのに、いつ実施されるかわからない計画的停電に備えて、節電したり、停電になった場合のスケジュールのやりくりを考える(心配する)のがきつかったです。

結局、幸いに計画停電はなかったのですが、これに限らず、自分の力ではどうにもならない何かに対して、あれこれと思案する事の大変さ、そして平穏な日々の中でも、時にはそれを意識して過す事の大切さを感じた「夏」でした。

木口 武雄